

黒石市立小・中学校適正配置第5回検討委員会会議概要

1. 日 時 平成22年12月20日（月）午後3時

2. 場 所 市役所 4階 大会議室

3. 案 件

1. 「各学校の概要と学習状況、重点的取り組み等について」
黒石市教育委員会指導課 藤田主任指導主事
「学校施設の現状について」

学校教育課 中村課長補佐

2. 質疑応答

4. 会議における主な意見 ※（○印は委員の意見、矢印は講師、事務局の回答）

- 質問ではないんですけども、たまたま私が昨年までPTAに関わっていた中学校の話がでましたので、教頭先生が体育の授業を担当しているという事で、正直言ってずっとここ何年も教頭先生が教科担任している状況が続いていて、中学校の教頭先生は本当に忙しいと思います。ですけども、私がPTAとして関わって教頭先生と話をすれば、直接授業をして学年の一人一人を確実に把握してくれているという事がありました。生徒にとっても直接毎日授業を受ける先生なので、教頭先生という存在が身近だという印象を受けています。ただ、実際中学校の教頭先生は忙しいです。その前の教頭先生は理科の実験の準備とか、ほんとに私もはた目で見えそうに見ていました。これが先生方に苦勞をかけているという事です。それとPTAもそうだし協議会としても学校に協力しようという姿勢をずっと保っていました。例えばここに出てきた小学校中学校との運動会なんですけども、学校には会議に2回だけ出てもらっていますけども、あと具体的な準備は協議会の方でやってもらって学校の生徒や先生には体だけ来てくれという状況を作って、先生には予算的な負担も、若干学校の中の自分たちのオリジナルの競技の部分では若干準備とかありますけど、後のことはできるだけ予算も含めて協議会で担当するようにしております。今年から1つはじめた事なんですけども、中学校の文化祭で今年支援を始めました。今まで長年いた先生がすごくバンド演奏が好きで、ずっと8年間それをやってきて中学校の1つのメインになってしまったんです。ところが、今回その先生は変わってしまって、でもそれは大方予想がついておりました、実は何年も前から準備しておりました。いざそうなった時に機材とか人とか出しましょうという事で準備をしていましたので、正直言って中学生のレベルには似合わない規模の機材を持ち込んで、2人が2日間ついてくれまして、音響を全部やってもらって大変お世話になりました。ただしそこまでやる条件と言えぱおかしけれど、子供たちにはバンドをやってどうしても晩とか集まったり練習で集まるんだけど、その中で生徒指導上の問題とか何か起こせばその場で辞めるから、忠告というか自分たちの文化祭でバンドとかやりたいのであればしかるべき行動は気をつけろという事は常々言っております。ただし、今年から始めたので実際学校の方の評価、文化祭に外部の人間が機材を持ち込んで手伝うのがいいの

か悪いのかはこれから年末にかけてあった時にでも一回確認したいとは思っているのですが、ちょっと補足しておきます。

→ 教頭先生が一人一人の生徒を把握しているというのは我々学校訪問で伺っているんですね。非常によくわかります。また小学校の学習発表会では、大変だけれども地域の方がPTAの方を中心に協力してくれる、とっておじいちゃんおばあちゃんにも喜んでくれるという話を学校長から直接伺っております。ありがたいという事で校長には話してきております。

○ はい、ちょっとお聞きしてもよろしいですか。来年度からの教科書のところで、社会科の教科書は3、4年上巻という事は3、4年で教科書が同じのを使うということで、上巻、下巻もあるという事でしょうか。

→ 下巻もあります。2年間持ち上がりという事で。例えば保健なんかもそうなんですけども。

○ それ、来年度からそうなるということでしょうか。

→ いいえ、今からなっています。非常に変則的で例えば国語であればそれぞれ1年生ではこういう風にしてやって、2年生ではこういう風にしてやって、3年生ではだいたいこう読んで中身をまとめて書いたり、4年生では要約していったりというのがずっと1、2、3、4、5、6と階段状になっていて、すばっとわかれていたんですけども、今の指導要領からですね1、2年生でこれをやりなさい、3年生と4年生でこれをやりなさい、5年生6年生でこれをやりなさいというような、2学年まとまりになっているんです。あらゆる教科がそういう形になっていまして、例えば国語であれば3年生でこの漢字は読めるまでしなさい。ただ書けるまでになるには4年生を終わるまででいいですよというような形になって、非常にわかりにくくなっているんです。学校側として困るのは転校生が来た場合で、全国同じペースで進んでいないので、運動会といえは東京の方では9月にやったりしていますし、非常に困ることがあるんですが、そういう事もありまして、もちろん国語とか算数とかは学年ごとの上、下巻になっていますけども、一部社会とか理科とか、中学校は分野別になっています。

○ はい、わかりました。ただそこが強調されていて牡丹平小学校が教科書が一緒になったので更に実際の授業に苦勞を伴うという風にかかれていたんですけど、昔から複式は先生が教科書を2冊持っていてやってるのでなんら変わらないと思って、何故以前から複式の学級がこういう事やっているのに、何故ここで強調したのか今ちょっと一つ疑問に思いました。それからもう1点ですね、5ページの教職員の配置状況のところと7ページの在籍生徒数の2枚を比べてみたんですが、六郷中学校が5ページでは1年2年3年2学級となっていますが7ページでは2、2、1学級になっています。それから中郷中学校さんが5ページでは1年生6学級、2年生が5学級、3年生が5学級となっていますが、7ページでは6、5、4学級になっていますけど、どうしてこんなに違っているのかなと思いつちが正しいかどっちが間違っているかわかりませんが。

→ 学級数でいくと6ページと7ページが確定数なのでこっちの方が正しいと思います。学校の方から調査をもらってまとめたのが5ページになりますので、ひょっとするとこっちの集計が間違っているかもしれません。7ページの方が正しい確定数になると思います。

○ はい、どうもありがとうございます。中学校では教頭が体育の授業とこれは当たり前じゃないんですか。教頭は授業を持つのが当たり前です。教員の定数に入っていますよね。教頭は授業を担当する教員の人数に入っているのです、どこの教頭も各学校の教頭は授業をもっているはずなので、ことさら中学校の教頭が授業をしているというのを強調しているのであれば、他の教頭さんにちょっと失礼かなと、基本的にみんなもっているはずなので。ただ小規模の中学校は技能教科の教員が配置されないというのはだいぶ前から問題になっていて、その辺りはいつもかわいそうだと、以前は県で講師を採用して何校か音楽の授業を持ってまわった時代もあったんですけど、今はそれが無いみたいでちょっと大変けども、それなのに小規模の中学校が学力高いというのは地域の教育力がいいからですね。あんまりこれを言えば問題になるんですが、正直今、英語、国語、数学、理科、社会に関してはそれは守られております。技術と美術と家庭科、家庭科は地元の人が特別講師でいつも来ておりますけども、技術と美術は社会の先生とかが代わりにやっているんですけども、そんなに特別問題を感じていないというのが正直な話。ただ、厚目内中学校が東英中学校にくるきっかけになったのは、英語、国語、数学、理科、社会の専門性が崩れたという、一学年で学担と学年主任がいなくなり、2人減って一気に5教科の受験に対する体制が崩れたという段階で一気に話題となりました。英語、国語、数学、理科、社会、受験に対する専門性がある時は保護者に関しては問題を感じていないのかなと思います。確かに美術とか、正直美術室自体が寒くて行きたがらないので、隙間風がすごいのであっちに行かない方がいいという状況なのです。

→ 実質文字だけ並べたので誤解を受けるかもしれませんが、教頭の持ち時間数調査というのがありまして、市内のすべての小、中学校の教頭先生が時間を持っていると思います。私も習字を持って子供たちと接したものでした。あるいは算数のTTで2人目の先生として授業に入ったりもしました。持っているとは思いますが、ここにあって書いたのは教頭先生が持っているというのもあるんですけど、まさに今おっしゃっている通りでやっぱり地域の学力、学校の子供たちを教える力としてはやっぱり受験必須教科と言えば叱られるんですけども、英語の先生が削られた時があるんです。○○中学校さんでございましたけども、絶対困るという事で次の年には復活した経緯があるんですけど、やはり子供たちの為にはきちんとした先生が配置されるべきだという私の持論でもあるんですけど、そういうところの意味も含めてちょっと例としてあげさせていただきました。

○ 特に中学校の教頭は教科の専門なので、当然授業しているのでは。ですから○○中学校も○○中学校も○○中学校も教頭はみんな授業を持っていると思いますけど。

○ 5ページのところの一番最後の市単独加配という欄があるのですが、その学力とあって、ちゃんとした名前があると思うんですが、具体的にはどういう役割をなされているのかという事と、その配置が例えば2、3年で終わりとか、あるいはずっとやっていくつもりだとかその辺いかがでしょうか。

→ 私の方から説明させていただきます。まず学力向上支援員にこちらの方は去年からなんですけど、国の臨時雇用の緊急支援という形で国のお金を使って人を募集しまして各学校に今年は1人ずつ配置してございます。年間700時間、使い方に関してはその学校に任せています。TTで入ったりあるいはそれこそ支援が必要な子供たちに対して入ったりという、学校の方である程度自由に使っていていいと。ただし時間が700時間と決まっていますので朝の9時から午後2時までですとかそういう風に限られております。これが緊急雇用の場合、1年以上の継続はできないという事ですので、とりあえず1年限りで来年また再募集という形で対応してございます。現在1学校につき1人なんですけど、大変好評でしたので規模の大きい黒石中学校、中郷中学校、黒石小学校、中郷小学校、黒石東小学校には来年プラスして予算要求しております。こちらの方は今後継続してサポートしていく形になります。これが今の緊急雇用が切れても市の方では支援していきたいと思っています。特別支援の先生方に関しても、それぞれ必要な学校に1人ずつ配置しています。

○ すみません、いいですか。部活の状況なんですけども、黒石小学校はダイヤモンドキッズという、外部指導というんですか、クラブチームですか。ほとんどの小学校が今はクラブチームになっていないですか、外部指導はかなり入っていると思うんですけど、サッカーとか。

→ ソフトもミニバスもはいつている学校もあります。

○ 両方入っている。結局小体連のかねあいがあるので両方に関わっているので大会数が多いという。

→ 純粋なクラブチームとしてやっているのはダイヤモンドキッズとかA&EとかそれからサッカーのFCとかAC。

○ ひところ外部指導にすごく力をいれて、小学校から部活を切り離そうという動きがあったんですけど最近はどうなんですか。

→ 先生方の数も減ってきているし、運営できる数も減っているんで、先生方も忙しくなると外国語をやらないといけなくなったり、小学校の先生も大変重要にも関わらず手が回らないという事で、コーチという形で招いている学校もたくさんございます。実は部活の先生の数も2人とか1人とか書いており、このうち数としては3人とか書いてるんですけども実際指導できる先生は1人とか、まったくバトミントンなんかやった事もないし自分で指導もできないという先生もあるんです。実際は子供たちの安全管理も含めてきちんと見るんですけど、指導に関しては監督なりコーチなり競技をちゃんとやった人が中学校にきて教えるという事もあります。ただ全面的にクラブチームにうまく移行している部分と、またそれぞれの学校事情によって異なりますので、全く外部という形にいつていない部分もございます。

○ 中学校に関しては一切そういう動きはないですね。

○ いや、中体連がある。

- だって小学校も小体連あるでしょう。
 - いえ、小体連というのは地区でしか出られないんですよ。小体連の県大会ってないんですよ。中体連は全国組織なので、だからクラブチームを作っても小学校で終わりになっちゃうんです。中学校になれば中体連になっちゃうので。
 - 私、小学校と中学校、黒石市でその動きに力入れた時期が何年か前ですが、結局中学校と小学校の部活に対する温度差というのがあまりにもあるなというのがいまだにあるんですけど、小学校でやってそのまま持ち上がって、結局実質的に持ち上がっていくんだけど、ちょうどいい外部指導の人が地域にいるかということそう簡単にはいかないで、なかなかそう移行できないと思うんだけど、それでもかなり進んでるんじゃないですか、今そういう風につかんでいますか。
 - 小学校の場合ですか。
 - ○○小学校の話しているんですけども、全部外部指導になっているはずですよ。
- これは学校の県の調査でですね、先生が入っている事を主にしてスポーツ少年団は除いてあります。中学校とかもそうなんですけど、大会によっては学校単位じゃないといけないというのもあるんです。中学校は委員もおっしゃったように中体連と言う組織があって、あくまで学校の教育活動の中の部活で、クラブチームは除くという形になっていて、学校としてじゃないといけないという形になるんです。私たちの子供の頃は余談になりますけども東英小学校や東英中学校の卓球が強くてどんなにやっても県大会で東英中学校に勝てなくておとされた経験があるんですけど。スポーツ少年団としての大会もありますし、学校に関係なく出れるのもありますし、また学校の枠を超えて出れるのもあります、6年前になりますでしょうか、黒石東小学校のバスケと東英小学校のバスケと一緒に大会に出れないかと言うと、駄目だというのといいという大会があって、それぞれ規約によって違うんだと担当と話し合った事もあります。例えばそういうのを知らない人が見れば混同するのかなというか、今本当に小学校の部活動は分かりにくい状況だと思います。北陽小学校はA Eでなかったでしたっけ。
- いえ、あれは両方入っていますが、両方入る事は出来なくなりました。A EはA Eで、北陽は北陽でという形で。ただA Eの監督が北陽出身なのでちょっと学校のグラウンドを借りてやっているんですけども。
- 今いい話を聞いたんですけども、私たちにもクラブチームの情報というのは上がってこないんですよ。なので実際にA Eとかダイヤモンドキッズがどういう活動しているかは、改めて聞かないとわからないのですが、学校でもまた把握していない場合があるんですね。市全体でとなるとまたちょっと担当が違うんですけども、社会体育担当があって、指導課の方には部活として上ってきたものだけです。私たちの課で把握しているのは。
- だから今部活に対して自由度がある意味広がってきていると思うんです。参加するにあ

たって選択肢が逆に増えているのかなという気がするんですよ。あんまりこれ今のこの規模の適正の議論の中で必要ないような気もするんですけど、それこそ東英小学校の中でも最初からダイヤモンドキッズに行かなきゃいけないと言っている人もいるし、中学校も山田で野球をやらないといけないと入っている人もいるし、部活の選択肢というのは個人の意味、家庭の意味にもよるんだけど、割と自由があるのかなと思います。

→ 進学先の話になりますと、今年の春の例では市内の小学校から聖愛中学校へという野球部絡みでという事もありました。

○ 部活絡みで1ついいですか。知ってる子が市内の中学校なんですけども、バトミントンの強い子がいまして、でもここにはバトミントン部がないですよ。だけどそういう学校もまだあるのかなと思って。そういう場合はどういう風な形で中体連に出ているのか聞きたいのです。

→ 中体連は出ていない。

○ 県大会とかには出てると思いますよ。

→ あくまでも学校単位になるので県大会には出れないと思うんですよ。大会そのものに。

○ 中体連の大会に出る時は中学校の名前が出るんですよ。例えば水泳の子が昔から同じ中学校に水泳部ないでしょ。でも弘前のスイミングに通っている強い子がその時だけ〇〇中学校とか〇〇中学校とかの名前を借りて出るんですよ。その時は先生が1人ついて行くんですよ、必ず。

→ 前にも〇〇中学校で卓球やっている子がどうしても中体連に出たいと臨時に先生をつけて出た事がありました。その時だけ登録してという形です。

○ 最初から名前は登録しておくだけで。

○ すみません。いいですか、違う話ですけども。メリットデメリットの小規模校です。一番疑問なのは小規模校というのが現在黒石でもそういう状況があって長所短所があって、それに教育委員会が全体としてどう対応しているのか、どう考えているのか、それがないとこれらが解決するのがわからない。それらをふまえて適正とはなにかと考えるべきのかなと思って、文部科学省でこうしたという訳ではなくて黒石でどう考えているかという事が大切だと思うんです。そういう意味でこの長所ですね。一人一人を細かに把握し指導を徹底しやすいと書いてあって、デメリットにグループ学習や習熟度別学習を取りにくって、これどういう対応を考えているのか、小規模校で出来ない事がデメリットなのか、一人一人がきめ細かに指導されているのであればこれに対してとる必要がないという考え方をすれば全然いいんだと思うんですけども。一番気になるのは、クラスの編成替えが出来ない為に人間関係が固定化しがちであるので、どうしたいというのが何でここになんだろう。完全にこういう状況ですよ。ますますそうだろうし、そこを考えないと次に行けないと思うんです。そういう事をもう少し突っ込んで理解しないと聞けないと思うんです。

すけど、公式見解でなくていいので、軽くしゃべってみてください。

→ ありがとうございます。当然だと思うんですけども、この資料を出すにあたって、私が依頼されて担当の学校教育課と教育長とも打ち合わせをしたんですけど、個人的な私見ではなく委員のみなさんからのいろんな意見を出してもらうように話題となる為の資料。委員の方々からたくさんのご指摘をいただいているような考え方が出てくるような資料を用意してくれ、という事であげさせていただきました。したがってデメリットでもあるしメリットでもあるしどっちと捉えてもいいような裏表一体になっているような考え方なんですけども、それに対して私がどうのこうのという訳ではありませんし、指導課としても年に何回もすべての学校を回って歩いて学校がそれぞれ実態に応じて努力されているのは重々わかっていますし、また大きい学校で本当に障害を持っていても普通学級にいたいという親御さんの希望があって、普通学級と一緒に大変苦労しながらやってる例もありますし、小規模の中学校も本当に先生方と一体となって頑張っているというのもわかるし、だからどうかということではなくて、あくまでたたき台というか資料提供という事で今日の段階では出させていただきましたということです。

○ この小学校や中学校は自動的に避難所とかの指定になるんですか。

→ これは、黒石市の総務課で担当しているんですが、黒石市の防災計画で避難所という場所が指定されています。ほとんど小、中学校がそちらの方で明記されています。あるいは公園とかがほとんど含まれているかと思います。

○ それからもう1つ。今改修補強とか改築が出たんですけども、これに対する対策のスケジュールとかはいつ頃具体化するのですか。

→ 具体的なものは23年度で実施設計し、どのように直すか、どのように工事するかという委託を出します。ただ、12月議会で市長が平成24年度から校舎の補強にとりかかると言っておりますので、私たちの方もそれから2、3年で児童生徒が1日の中で大半を過ごす校舎を先に補強し、その後体育館を改築というような事を考えています。

○ ちょっと恥ずかしい質問になるかもしれませんが、黒石中学校の屋内運動場がI S 0.34、それから東英中学校の校舎が同じく0.34なんですけど、片方が改築で片方が耐震補強ということで何か体育館と校舎で基準が違うという事はあるんですか。

→ これはですね、いわゆる体育館の場合、これも補強でもできます。ただし体育館そのものがご存じのとおり広い面積を必要として中に柱も建てられないという事で、結局そのように補強するという事が、新しく建てる分のお金がかかるという事になりまして、それなら新しく建てた方が機能的にもいいんじゃないかなという事で、私たちの方が校舎は補強、体育館は新しく建て直すよというような判断をしました。

○ すみません。さっき質問を言えば良かったんですけども、最初の藤田先生の話を一通り聞かせていただいたんですけども、全体の話を知ると、小規模になればなるほど何か先生の負担が増すのかなというところで、小規模になればなる程、先生の数を少なくしなければ

いけない現状なのか、そういう基準があるから小さければ小さいほどゆとりあるように見えていながら、逆に小さくなれば負担になるというところがちょっとおかしいというか、何でそうなのかなというのがありますね。先生の数も少ないというお話もありまして、何でそんなに先生の数が少ないのかなということも率直な私の疑問です。

→ 学級数に応じて先生の数が変わってくるというのは、5学級までがプラス1なんです。平成22年度小・中学校教職員配置基準という資料です。4月27日の資料です。こちらの方の基準がありまして、これは県の方で示しているものなんですけども、実質教員、教頭、教諭の場合は学級数にプラス1で配置が含まれていて、学級数が1学年1つの教室だと小学校で6学級になります。その時学級数が6学級の場合は教員数がプラス2になります。それからその学級数によって教員の配置数が変わっています。ですから学級数が多くなれば教員の数もそれだけ多く配置されるような仕組みになっています。

○ 藤田先生再度確認ですけども、黒石の小、中学校は適正規模、小規模にかかわらず、それぞれ各学校に応じて特色ある教育活動をしているという事でよろしいですか。

→ 大変充実した教育活動をしております。